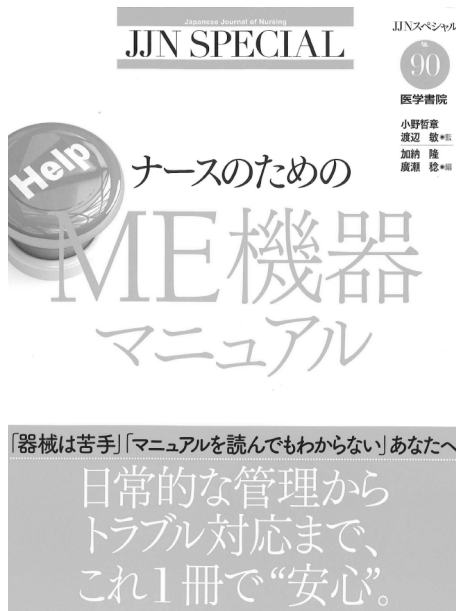




《JJN スペシャル》 ナースのための ME 機器マニュアル

小野哲章/渡辺敏＝監 加納隆/廣瀬稔＝編

定価2940円(本体2800円+税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657

東日本大震災に端を発した福島原発の事故の影響から、今年の夏は節電が叫ばれた。震災直後、東京電力は地域を限定しながら計画停電を実施した。準備期間もなく計画停電が行なわれ、対象となった地域の人々の苦勞は、被災された方々の苦しみと隠れ、声としては取り上げられることはなかった。そのようななかであるテレビ番組で、突然の停電に備えて奮闘する訪問看護師と、在宅で介護する家族の取り組みが取り上げられていた。計画停電の実施地域で切実な問題となつたのは、自宅で人工呼吸器を使用している方や、定期的な吸引が必要な方々の命を守る戦いであった。看護師が手動式の

吸引器を作つて家族に指導し、家族は指導を受けた方法で停電の暗闇の中、痰を吸引して、家族の命を守っていた。

私が勤務する大病院は、計画停電の対象とならなかったが、一晩中シリンジポンプを使用している患者や心電図モニターで管理している患者も多く、電子機器をはじめとして、電子カルテやPHSの充電など、現代の医療現場は電気がなくては必要な治療も情報交換もできない。そんな医療の現実のなかで働く看護師に、医療電気機器に関する勉強の機会を与えてくれたのが、今回の震災だったのでないだろうか。

電気機器が苦手な女性のための構成

看護職は女性の多い職種であり、電気機器は苦手という女性が多い。そんな私たちのために、本書は出版された。内容は、「医療機器を安全に使用するために」「病院内で使用する医療機器」「在宅で使用する医療機器」の3部構成となっており、機器ごとに使用目的の説明から、メカニズム・各部の名称と役割・取扱手順・保守点検の方法が、臨床工学技士によりわかりやすく書かれている。

「在宅で使用する医療機器」では、在宅輸液療法・在宅人工呼吸療法・在宅血液

透析についての導入の流れがフローシート形式で書かれており、人工呼吸器使用時の所轄の消防署や電力会社への連絡書類も紹介されている。

現在、大病院の在院日数は平均15日。長寿国である日本では、すでに慢性疾患を抱えて在宅療養をしている人が、がんの宣告を受け、抗がん剤治療のために入院されてくる方も多い。気管切開に対する吸入・吸引、経管栄養など、新たな看護処置を必要として自宅に戻られる方もいる。在宅緩和ケアとなった場合は、人工呼吸器、持続皮下注射、酸素療法、血糖測定など、病院と同様の医療・看護が提供される例も多くなってきた。

本書は、46種類の医療機器を取り上げている。そのなかには、普及しすぎていて、いまさら聞けない自動血圧計の取り扱い上の注意から、血糖測定器、加温・加湿とネブライザー、酸素ボンベ、電気吸引器、経腸栄養ポンプ、ペースメーカー、人工呼吸器など、在宅でも使用されている機器類が、図表でわかりやすく説明されている。説明書として家族への指導にも、そのまま活用できそうである。医療機器についての正しい知識と取り扱いを学ぶため、本棚に1冊、強い味方として手元に置くことをお勧めする。